

プラネタリウムの多目的化とアストロツーリズムによる地域創生

研究の概要

従来のプラネタリウムは星空を再現するだけの装置でしたが、広いドームスクリーンを星空だけに利用するのは勿体ないです。ドームスクリーンに実写の観光映像やスポーツやエンターテインメント映像を流せば、まるでそこにいるかのような臨場感を感じることができます。この技術を使って、2021年の東京オリンピックでは競技映像を全国各地のプラネタリウム館に配信し上映する実証実験が行われ、多くの市民が無観客で開催されたオリンピックを競技会場にいるような感覚で楽しむことができました。全国各地にあるプラネタリウム館を多目的化することで、既存施設を交流の場に変えることができるでしょう。

また近年、美しい星空を活かした観光（アストロツーリズム）が注目されています。

和歌山大学では、鹿児島県与論町と連携して、持続可能なアストロツーリズムを開発しています。星空が美しい地方自治体であればどこでも応用可能です。



鹿児島県与論町で開発中のアストロツーリズムの一例

研究の特徴

プラネタリウム館は全国に約300館以上あります。多目的化するためには、プロジェクターや高性能映像サーバの導入が必要になりますが、もっとも金額がかかるドームスクリーンは現状のものを利用することができます。今ある施設を有効活用できるのが、この研究の利点で、このプラネタリウムを使った多目的場なシアターは、内閣府がオリンピックのレガシーとしても認められています。また、アストロツーリズムに関しては、現状で美しい星空があれば、新たなハード整備は不要です。ガイド養成などのソフト作りから支援できます。また、星空環境を保全するための屋外照明の改良などの、現状調査から支援することが可能です。

実用化が想定される分野

観光、映像、地域創生

研究者からのメッセージ

プラネタリウムやアストロツーリズムの現場は地方自治体になりますが、映像制作や観光開発においては民間企業との共同研究が重要です。官民間わす声をかけてください

<https://astrotourism.jp>

研究分野 : ヴァーチャル・リアリティ, アストロツーリズム

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授/理事・尾久土 正己

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp